

<http://www.kikokusha-center.or.jp>

本紙4月号、10月号（紙版）以外の随時発行のweb版は、HP掲載時に、その内容をメールにてお知らせすることができますので、ご希望の方は、以下の宛先まで、①お名前（団体窓口者の方は団体名も）と②ご自身のメールアドレスをお教えてください。

宛先：tongtong@kikokusha-center.or.jp

お問い合わせは 電話 04-2993-1660 FAX 04-2991-1689



目次

地域情報ア・ラ・カルト

支援相談員の現場から ー埼玉県加須市での試みー 2

行政・施策 厚生労働省から

介護に携わる関係者の皆さまへ

中国残留邦人等に支援・相談員や自立支援通訳を派遣する制度をご存じですか..... 4

教材・教育資料

* 宇都宮大学 HANDS プロジェクト『教員必携 続・外国につながる子どもの教育』..... 4

* 『はじめての日本語とクラスの仲間づくり～日本語初期指導カリキュラムと指導プラン～』..... 4

とん・とんインフォメーション

* 「中国帰国者生活文化作品展」10月16日より..... 5

「中国帰国者のための健診結果ガイド」ロシア語版完成..... 5

* 『置き去りにめげずカザフスタンで生き抜いた同胞たち』HP にアップ..... 6

* 「満蒙開拓」に関する資料提供のお願い《満蒙開拓平和記念館》..... 6

『下伊那のなかの満洲 聞き書き報告集 10』『下伊那のなかの満洲 別冊記録集』..... 7

* 「新しい在留管理制度」情報の外国語翻訳が見られます..... 5

中国語で運転免許の学科試験が受けられる道府県..... 12

2012年度 高校進学進路ガイダンス〈各地の情報〉..... 8

* 〈多言語による高校進学進路ガイドブック〉追加..... 9

* 中学校卒業程度認定試験（中卒認定）受験案内..... 9

奨学金情報..... 10

〈お知らせ〉高校入試特別措置/大学入試特別枠情報..... 8

* 外国語の絵本に関する情報いろいろ..... 10

ニュース記事から 2012.03.01～2012.08.31..... 11

* 〈人事異動〉中国帰国者支援・交流センター..... 5

〈訂正〉..... 3

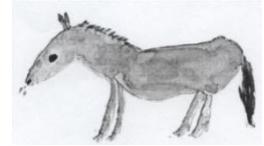
遠隔学習インフォメーション

「日本語遠隔学習課程（通信教育）」はいつからでも始められます..... 12

この紙版『同声・同気』は、随時発行しているweb版『同声・同気』（当センター・ホームページ <http://www.kikokusha-center.or.jp> に掲載）から抜粋したのも含まれています。目次の*は、web版（2012年6月号、8月号）で紹介の記事です。

「支援・相談員」の現場から〈その3〉

一 埼玉県加須市での試み一



支援相談員は、帰国者が基本的な生活を安心して送れるように働く。日々の暮らしの安定を図ることは、帰国者にとって最も重要なことだろう。一方、生活に一定の安定が得られた帰国者は、日々の生活に満足しているだろうか。高齢で帰国した人、あるいは、3、40代で帰国し、現在は退職して老後生活を送る人、彼らの多くに共通して言えるのは、日本語でのコミュニケーションの難しさであり、地域社会での人間関係の希薄さである。高齢帰国者の多くは、日常的な人間関係の範囲は家族にとどまることが多く、地域社会の一員としての自覚を持つことは難しい。そして、家に引きこもり孤独を感じていたり、QOL(クオリティオブライフ=生活の質)に満足を得られないまま過ごしていることが多い。人生最後のステージにいる帰国者にとって、地域社会の一市民であるという自覚は、日本に定着したことを肯定的にとらえるための一つの鍵となるのではないか。今回は、そのような帰国者のニーズに注目し、支援相談員という立場で帰国者と地域を「繋ぐ」試みをしている事例を紹介したいと思う。



埼玉県加須市の宇津木昭二さんは平成20年、市の依頼を受けて支援相談員となった。それまで宇津木さんは、地域の外国人と地域住民を繋ぐために「加須にほんごの会」を主催し活動していた。

支援相談員となった宇津木さんは、4世帯の帰国者を担当し日々のサポートを行う一方、「地域における中国残留邦人等支援ネットワーク事業」という3カ年にわたる事業の計画に着手した。この事業の趣旨は、「中国で高学歴を修め、高度な技術、特殊技能、豊かな経験を有していても日本語の問題や諸法規、年齢などにより、その活躍の場が極めて少なかった」帰国者を対象に、「中国残留邦人の尊厳を守り、地域社会への参加のみならず、貢献をもって、地域社会への融合を目指す。支えられるだけでなく、自分も支えるのだという気概を持ち、社会の一員としての自覚を持ってもらう」ことを目指すというものである。この事業の立ち上げに至るには、

いくつかの背景や出会いがあった。

加須市は3.11の震災・原発事故以来、福島県双葉町からの避難者を受け入れたことでもご存じの方は多いと思うが、人と人、地域と人の絆を大切にしようという絆推進運動を5年近く行っているという土地柄である。宇津木さんによれば、「この地域は地方田園都市ですが、伝統的に海外からの人たちを温かく受け入れる風土があり、協力者を求めることも比較的容易にでき、支援事業に恵まれた場所」ということだ。このような地域の特性を背景として、「地域住民との絆をつくり深める」という本事業の趣旨は受け入れられやすいものだったという。

また、相談員の仕事を通して宇津木さんが感じていたことがあった。「帰国者の方々はそれぞれ大いに異なる事情の上に今日がある、日々の諸問題はそれぞれの背景・経過等を十分考慮して対応することが大事だ。高齢化の進む帰国一世への支援は、今後更に難しい状況になっていくと思われ、支援事業は、期限のない長期的なものであり、日常の問題処理のほかに、数年にわたる中期的な支援事業を計画してもよいのでは」と考えたという。

そして、担当家族だったTさんとの出会いがあった。Tさんは、一世配偶者で「中国では教養豊かで尊敬される人でしたが、帰国後日本語を話す機会がほとんど必要のない仕事に従事していたので、日本語が十分ではなく、その上日本人とも話す機会もなかった」が、「地域の人々と絆を持てる機会があれば努力してみたい」という前向きな姿勢があり、本事業の中心人物としてぴったりだった。そして、もう一つは本事業に対する自治体担当者のKさんの理解と協力があったことだ。このような条件がそろい本事業の立ち上げに繋がったという。

計画の初年度は、Tさんと宇津木さん、地域の日本語支援ボランティアグループから中国の文化歴史に興味がある2名が参加し、4名で中国語と日本語を交えながら、両国の文化、歴史、生活習慣などについての座談会を定期的に催した。

そして、次年度は教育委員会の後援を得て一般に参加者を募集し、中国語入門講座を中心に、中国の歴史、文化、生活、習慣、日中交流史に

についても知るという「文化講座」を行った。15名の参加を得て、47回行った。宇津木さんは、支援相談員の仕事として継続して運営に参加し、Tさんと参加者を繋ぐ役割を果たした。最初は、中国残留邦人、中国、中国語について参加者の理解にはかなり差があったが、試行錯誤を重ねながら継続した結果、最後には市民12名によりTさんを支援するグループ「柳絮(りゅうじょ)の会」が結成され、Tさんと参加者の間に継続的な「絆」ができたという。その結果、Tさんは「多くの人に自身の考えや歩んできた人生について語ることに、さらには豊かな知識、経験について多くの人に伝えることの楽しさや喜びを実感されたようだ」という。

そして、現在3年度目の講座を実施中とのこと。現在の参加者は22名に上り、Tさんも中国訪問中を除き休講ゼロでがんばっているそうだ。Tさんにとっても、この講座が生活の張りとなっていることが伺われる。メンバーは、本屋の主人、公務員、主婦、先生、食堂の主人、電子技術者、栄養士等、いろんな立場の人が集まっている。会の参加者もTさんを通して残留邦人

への理解を深め、Tさん家族と参加メンバーとの個人的な交流も生まれている。近い将来、Tさんと一緒に中国旅行も計画しているそうだ。

新たな支援の中で、地域での帰国者の孤立化を防ぐために、交流活動の推進が言われているが、本当に帰国者が地域に根ざした関係を住民との間に築いていくためには、一過性のものではなく地道な関係作りの継続が必要なのだと実感した。また、それには地域住民と帰国者の両者を理解する「繋ぎ役」が必要だということ。支援相談員は、「繋ぎ役」となれる可能性を持っている貴重な存在であると思う。

また、本事例は様々な条件が整って実現したものと言えるかもしれないが、支援相談員の仕事というのは、帰国者の状況、地域の特性、相談員の持つ条件に応じ様々な範囲や方法があるのではないかということを感じた。



〈訂正〉

「同声・同気」53号の記事に次のとおり誤りがありましたので、お詫びして訂正します。

訂正箇所	誤	正
p1 お知らせ (アミ掛け部分3行目)	2001年	→ 2011年
p3 支援相談員の現場から (中文タイトル下)	C女士	→ C先生
p4 中文右部分1行目	她	→ 他

★web版「同声・同気」2012年8月号より

日中国交正常化40周年及び援護基金創設30周年記念事業

「中国帰国者生活文化作品展」のご案内 入場無料！

「同声・同気」web版（2012年6月号、8月号）でも作品募集のお知らせをした記念事業「中国帰国者生活文化作品展」が、いよいよ開催されます。

主催：（公財）中国残留孤児援護基金、東京中国文化センター 共催：墨縁金橋会

会場：東京中国文化センター（東京、虎ノ門）

期間：平成24年10月16日（火）～19日（金）10:30～17:00（但し、10月19日は12:00まで）

作品：①書道・水墨画 ②写真 ③絵画（油絵、水彩画、絵手紙等）

④手工芸その他（切り絵、篆刻、刺繍等）

その他展示資料等、中国帰国者等の歴史と現状に関するパネル資料も展示

全国から集まった423点の作品の中から選ばれた40点を展示。応募作品で最も多かったのが写真、次いで書道・水墨画で、とてもレベルの高い作品が集まった。作品を通して、作者の背景・これまでの人生について、是非思いを巡らせて頂きたい、とのことです。

詳しくは<http://www.engokikin.or.jp/>をご覧ください。

「中国帰国者のための健診結果ガイド」

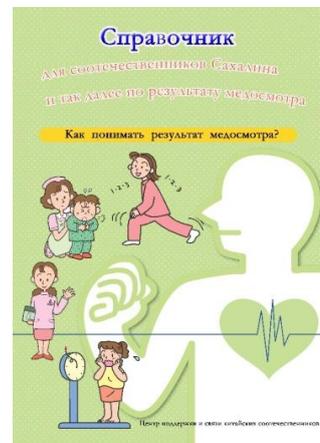
-健診結果をどう読みとるか-

ロシア語版完成（所沢センター作成）！

web版（2012年6月号）でご紹介した「中国帰国者のための健診結果ガイド」-健診結果をどう読みとるか- 編集：中国語医療ネットワークサービス故郷、発行：中国帰国者支援・交流センター（首都圏センター）A4判10頁のロシア語版ができました。

これは、帰国者二世の医師が、健康診断の検査項目と数値の意味について、簡潔でわかりやすい説明を心がけ作成したものです。PDFファイルで、日本語版、中国語版、ロシア語版があり、ダウンロードできます。

<http://www.sien-center.or.jp/>



★web版「同声・同気」2012年6月号より

〈人事異動〉

中国帰国者支援・交流センター 新所長

紙版前号（4/10発行）に間に合わなかったため、遅くなりましたが今号でお知らせします。

- ・北海道センター 藤田 裕行 氏
- ・東北センター 尾形 正行 氏
- ・東海・北陸センター 米倉 康博 氏
- ・近畿センター 山下 つねよ氏
- ・九州センター 井原 庸尋 氏

★web版「同声・同気」2012年6月号より

「新しい在留管理制度」情報の外国語翻訳が見られます

2012年7月9日に新しい在留管理制度が施行されました。外国人登録制度が廃止され、新たに在留カードが交付されること、住居地の自治体で住民票が作成されることなど、これまでの制度が大きく変わりました。

法務省入国管理局のサイトに「新しい在留管理制度」の翻訳26言語（中、露ほか）と、制度の説明（日・英・中・韓・西・ポルトガル語）が掲載されています。

http://www.immi-moj.go.jp/newimmiact_1/index.html

★web版「同声・同気」2012年8月号より

『置き去りにめげずカザフスタンで生き抜いた同胞たち』

著者：小川峯一（おがわ よういち） NPO 法人日本サハリン同胞交流協会会長
2010年7月20日発行

冊子は絶版ですが、当センター・ホームページにアップ！

<http://www.kikokusha-center.or.jp/>
コンテンツガイド 〈 帰国者とは 〉 → 〈 手記・体験記 〉

敗戦後、サハリンから連行され、カザフスタンに置き去りにされた残留日本人たちの軌跡を描いた同書、第1章から第4章までをアップしました。

- 第1章 十四歳で捕まり、五十六年ぶりに永住の三浦正雄さん
- 第2章 子供はドイツに別れ住む運命の伊藤實さん
- 第3章 まだ帰れず 日本人墓地守る 阿彦哲郎さん
- 第4章 望郷四十七年、死亡宣告の小関吉雄さん

※阿彦哲郎さん、三浦正雄さんのお二人は当センターの修了生です。



★web版「同声・同気」2012年8月号より

「満蒙開拓」に関する資料提供のお願い《満蒙開拓平和記念館》

日中双方に大きな被害と犠牲を出した「満蒙開拓」の史実を語り継ぎ、戦争の悲惨さ、平和の尊さを発信する拠点「満蒙開拓平和記念館」が、来春、長野県南部の阿智村にオープンします。飯田日中友好協会を母体とする「満蒙開拓平和記念館事業準備会」が事業主体で、建設用地は阿智村が村有地を無償貸与。7月までに造成工事を終え、8月から本体工事に着手しました。

工事と並行して展示の設計を進めており、現在、「満蒙開拓」に関する資料を集めています。**現地で撮った写真、手紙、生活用品、衣類、また移民募集のちらしや行政からの文書など送**

にかかわるもの、その他戦後開拓団ごとに編集した記念誌や記録集などの書籍も収集しております。もしお心当たりがあり提供してもよいという方は、是非ご一報ください。展示、あるいは研究資料として保管させていただきたく、後世につないでいきたいと存じます。

人々の中に戦争の傷跡は残っていても、戦争の歴史は風化しつつあります。「負の遺産」に向き合い学び合うことで、未来を創っていく力にしていきたい。「満蒙開拓平和記念館」建設に皆さまのご支援ご協力を心よりお願い申し上げます。

一般社団法人 満蒙開拓平和記念館事業準備会

事務局長 三沢亜紀

〒395-0303 長野県下伊那郡阿智村駒場 447-2

電話&FAX 0265-43-5580 メール nihao-iida@mis.janis.or.jp

ホームページ <http://www.manmoukaitaku.com/>

『下伊那のなかの満洲 聞き書き報告集 10』

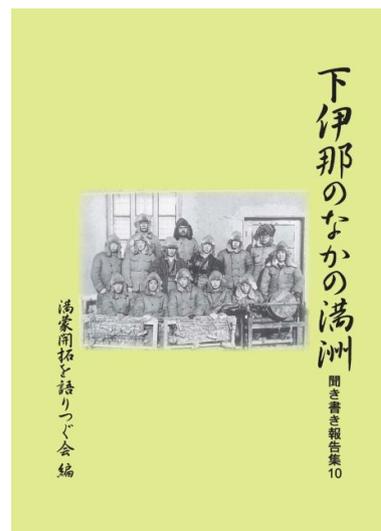
満蒙開拓を語りつぐ会 編 飯田市歴史研究所 発行
2012年7月 354頁 B5判 定価 1000円

本紙 28号、49号、web版 2011年8月号でご紹介した『下伊那のなかの満洲 聞き書き報告集』の最終号、第10集が発刊されました。

戦時中、全国で最も多く満洲開拓移民や青少年義勇軍を送り出した長野県飯田・下伊那地方の「満蒙開拓を語りつぐ会」（筒井芳夫代表）は下伊那を中心とする44名で結成されています。満洲に渡った開拓団員や青少年義勇軍等関係者から語りつぐ会のメンバーが体験を聞き取り、文字を起こしました。また、自身の体験を今まであまり語りたがらなかった開拓体験者が『報告集』の出版をきっかけに公に語り始めたのだそうです。

第10集は開拓団と義勇隊の体験者から12名の語りを収録。渡満、開拓団での暮らし、逃避行、戦後の生活、永住帰国、残留邦人（残留婦人も含む）として帰国するまでの体験等が語られました。残留孤児国家賠償訴訟で原告として中心的な役割を果たした宮島満子さんの語りがいちばん最初に掲載されています。

本年7月、「語りつぐ会」の活動に対して、信濃毎日新聞社と信毎文化事業団から「第19回信毎賞」が贈られました。「満蒙開拓」を知らない戦後生まれの人にも、ぜひ読んでいただきたい聞き書き集です。



『下伊那のなかの満洲 別冊記録集』

満蒙開拓を語りつぐ会 編 飯田市歴史研究所 発行
2012年7月 195頁 B5判 定価 200円

平成14年4月に発足した「語りつぐ会」は今年度末までの活動となり、これまでのまとめとして『下伊那のなかの満洲 別冊記録集』を刊行。10年間の活動記録、85名の語り手の皆さんの一覧、語り手と会員、読者の寄稿文が収録されています。21世紀初頭に下伊那の地で語りつぐ会が活動したことも記録もしておきたいという思いからまとめられたとのこと。

問い合わせ：飯田市歴史研究所 電話 0265-53-4670

FAX 0265-21-1173

Eメール iihhr@city.iida.nagano.jp



飯田市ホームページ

<http://www.city.iida.lg.jp/iidaspyher/www/info/detail.jsp?id=4591>

2012年度 高校進学進路ガイダンス〈各地の情報〉追加 2012.9

本年度の進学ガイダンス実施情報をお知らせします。ガイダンスの内容、開始時間、参加申し込み・通訳の予約が必要かどうか等、詳細は事前に連絡先にお問い合わせください。

HPで新情報を随時更新！ <http://www.kikokusha-center.or.jp/> →新着情報コーナー

【栃木県】

10月28日(日) 宇都宮市 宇都宮大学 峰キャンパス
 主催：宇都宮大学 HANDS プロジェクト
 連絡先：028-649-5196
 URL：<http://www.djb.utsunomiya-u.ac.jp/>

【千葉県】

10月14日(日) 市川会場：市川市立第七中学校
 主催：「日本語を母語としない親と子どものための進路ガイダンス」実行委員会
 連絡先：080-3179-9539 (白谷秀一)

【東京都】

10月28日(日) 八王子学園都市センター (八王子市)
 主催：八王子国際協会
 連絡先：Tel&Fax：042-642-7091
 URL：<http://hachiojikokusai.world.coocan.jp/>

【神奈川県】

10月14日(日) 厚木市 ヤングコミュニティセンター
 主催：神奈川県教育委員会、NPO 法人多文化共生教育ネットワークかながわ
 連絡先：NPO 法人多文化共生教育ネットワークかながわ
 050-1512-0783 e-mail: me-net@nexyzbb.ne.jp
 URL：<http://www15.plala.or.jp/tabunka/>

【岐阜県】

10月24日(水) 国際教室進路説明会 会場：未定
 主催：可児市教育委員会
 連絡先：0574-62-1111 (内線2412)

【三重県】

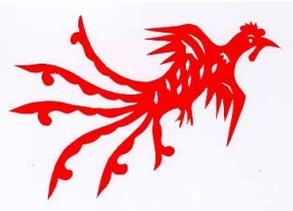
10月13日(土) 津市高茶屋市民センター
 主催：「学校へ行こう！in 津市(進学ガイダンス)実行委員会」
 連絡先：津市教育委員会事務局人権教育 059-229-3249
 e-mail:E3439@city.tsu.lg.jp (メールは母語も可。母語名を明記)

【滋賀県】

10月21日(日) 滋賀県立水口高校セミナーハウス
 主催：(公財) 滋賀県国際協会(光田)
 連絡先：Tel:077-526-0931 Fax: 077-510-0601
 e-mail: mitsuda@s-i-a.or.jp
 URL：<http://www.s-i-a.or.jp/>

【大阪府】

豊能地区 11月3日(祝) とよなか国際交流センター
 三島地区 11月11日(日) 山田夢つながり未来館
 北河内地区 10月14日(日) 交野市立岩船小学校
 中河内地区 11月1日(木) 八尾市役所大会議室
 " 11月5日(月) 八尾市立教育サポートセンター
 " 12月8日(土) イコーラム(希来里)
 南河内地区 10月28日(日) 富田林市役所4階会議室
 " 11月11日(日) 富田林市役所4階会議室
 泉北地区 10月28日(日) 堺市立堺高等学校
 泉南地区 10月21日(日) 府立佐野高等学校
 主催：大阪府教育委員会
 連絡先：大阪府教育委員会事務局市町村教育室小中学校課進路支援グループ 06-6941-0351(内線3504)
 URL：<http://www.pref.osaka.jp/shochugakko/>



〈お知らせ〉

当センター・ホームページ「同声・同気」トップ — 支援情報
 〈進学進路情報〉コーナー <http://www.kikokusha-center.or.jp/>

◆今年も11月上旬に更新予定！

《 全国中国帰国生徒及び外国籍生徒への高校入試特別措置情報 》

《 昼間の中学校編入情報 》

◎政令指定都市のうち12都市の市立高校調査も◎

◆随時更新！

《 2013年度(2013年4月入学)中国引揚者等子女特別枠のある大学入試情報 ホームページアドレス一覧 》

中国語で運転免許の学科試験が受けられる道府県があります

現在、日本では多くの外国籍の人たちが運転免許を必要としていて試験を受けています。しかし、学科試験が外国語である日本語ということもあり、標識、交通ルールなどがわかっても、試験独特の日本語の言い回しが理解できずに合格まで至らなかったというケースもありました。現在ではさまざまな社会的状況を考慮して、全ての都道府県で英語での運転免許の学科試験が行われるようになっていますが、中国語で学科試験が受けられるのは以下の15道府県です。(2012年9月現在)

道府県	試験場名	電話番号
北海道	札幌運転免許試験場	011-683-5770
	函館運転免許試験場	0138-46-2007
	旭川運転免許試験場	0166-51-2489
	釧路運転免許試験場	0154-57-5913
	帯広運転免許試験場	0155-33-2470
青森県	青森県運転免許試験場	0177-82-0081
	八戸運転免許試験場	0178-43-4141
	弘前運転免許試験場	0172-31-0737
宮城県	宮城県運転免許センター	022-373-3601
	石巻運転免許センター	0225-83-6211
	古川運転免許センター	0229-22-8011
	仙南運転免許センター	0224-53-0111
富山県	富山県運転教育センター	076-441-2211
石川県	自動車運転免許センター	076-238-5901
福井県	福井県運転者教育センター	0776-51-2820
	福井県嶺南運転者教育センター	0770-45-2121
	福井県丹南運転者教育センター	0778-21-3613
	福井県奥越運転者教育センター	0779-66-7700

道府県	試験場名	電話番号
愛知県	愛知県運転免許試験場	052-801-3211
	東三河運転免許センター	0533-85-7181
滋賀県	滋賀県運転免許センター	077-585-1255
	運転免許サブセンター米原分室	0749-52-5070
京都府	自動車運転免許試験場	075-631-5181
大阪府	門真運転免許試験場	06-6908-9121
和歌山県	和歌山県警察本部交通センター	073-473-0110
	田辺運転免許センター	0739-22-6700
	新宮運転免許センター	0735-31-7771
鳥取県	東部地区運転免許センター	0858-35-6110
	西部地区運転免許センター	0859-22-4607
島根県	島根県運転免許センター	0852-36-7400
	島根県西部運転免許センター	0855-23-7900
山口県	山口県総合交通センター	083-973-2900
熊本県	熊本県運転免許センター	096-233-0110

遠隔学習インフォメーション

「日本語遠隔学習課程（通信教育）」はいつからでも始められます！

日本語遠隔学習課程は、常時、申し込みを受け付けています。申請後、受講許可がおりれば、翌月から学習をスタートできます。受講料、教材費は無料です。10月上旬に新しい募集要項をお送りしますので、周囲の帰国者の方々にお勧めください。

* 「遠隔学習課程」の教材見本はセンターHPから見られます！CDの音声も聞けます！

* センターHPのトップページから募集要項がダウンロードできます。

<http://www.kikokusha-center.or.jp/>

今年開講した「おしゃべり話題コース」（「同声・同気」53号でも紹介）は、現在、人気上昇中！インターネットを使ったスカイプ（無料テレビ電話）プログラムもあります。先生の顔を見ながら楽しくおしゃべりして日本語を学びませんか。

「おしゃべり話題」：簡単な自己紹介程度のやり取りはできるが、もう少し長い時間、周囲の人たちと「おしゃべり」する力をつけたい人にお勧め。どんな話題で、どんなことに気をつけながら会話すればよいかを、たくさん聞き、声に出す練習を通して学習していきます。中国語母語話者の発音の弱点を取り上げた「発音講座」もついています。

■ 「遠隔学習課程」についてのお問い合わせ先

電話：04-2993-1662（遠隔学習係） E-mail：kyohmu-2@kikokusha-center.or.jp